

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470501572		
法人名	社会福祉法人本城福社会		
事業所名	グループホームセラピス		
所在地	呉市柝原町字中倉150-2 (電話) 0823-30-5150		
自己評価作成日	令和2年1月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470501572-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年1月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自然溢れ、四季折々季節を感じることができる。同法人敷地内に保育園があり園児交流ができる。散歩、誕生日会、行事参加などあり。他にも多くのボランティア(フラダンス、オカリナ、カラオケ、小学生コーラス、太極拳、日本舞踊)など慰問があり楽しく過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の最近の特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」「利用者同士の関係の支援」に深化が見える。即ち、法人の隣接通所介護事業所と週2回、食事やレクリエーションを通して交流しており、新たな馴染みの人や場との関係継続に繋がっている。事業所では歌うこともなかった利用者が、そこでは歌詞も見ず、所作も交え楽しまれている。第二に「本人と共に過ごし支えあう関係」「思いや意向の把握」の深化がある。即ち、その方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、受容して利用者の「強み」に意識を向け、その人らしい役割と居場所作りを支援している。夫が農園を営んでいた為、花の好きな利用者にフロアの花を飾って頂いたり、他の人には洗濯畳みやお膳拭き等の「強み」を発揮して頂いている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「お互いが支え合いながら自由楽しく我が家のように過ごす」この理念を念頭に、その時の状況、その方に一番良いと思われる介護をその都度、管理者、職員で話し合い実践している。	事業所開設時に開設者により策定された理念を所内に掲示して常に確認出来る環境下で、実践上の立ち返るべき原点として位置付けている。利用者の個別な生活作りを目指し、利用者への対応や状態変化等を振り返る中で、その気付きを意見交換したり、介護記録に残して共有する等して理念の実践・達成度を評価している。	開設時の理念の策定から17年を迎え、理念の周知や実践につき、より深く取り組むことで更なる向上を期待したい。例えば、理念の下に事業所で分り易い具体的な年間行動目標・計画を設定し、定期的に達成度を検証する案など、評価の検証過程を「可視化」することで、職員間の認識を共有化して理念の深化・定着を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の秋祭りをはじめ小学生やボランティアなどの慰問があります。週に2回はディサービスへ参加し交流をしている。	日頃から近所への散歩や法人の隣接通所介護事業所での行事に利用者が参加したり、法人関係者が協力する介護予防サロン等で地域の方と交流をしている。又、地域の秋祭りでやぶ（鬼）の来訪やおカリナ演奏他のボランティアを受け入れる相互交流や隣接保育・幼稚園や小学校との世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣者の方等より相談を受ける事があれば相談に乗り助言をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1度、会議を行っている。日常生活にあったこと行事の報告を行い、意見していただきそれに基づきより良い生活ができるようにしている。	会議は定期的開催され、自治会長・町づくり委員会員・地域包括支援センター職員が毎回、時に家族代表・市担当職員が参加している。会議では事業所の現況報告や相互の意見交換が行われ、その意見交換の中から初めての家族代表の会議参加に繋がった経緯がある。	参加者の意見が運営にほぼ反映されているが、活発な意見交換の場とは言い難い。現在は議事録が公表されておらず、参加していない家族への「事業所運営に関する情報」が共有されていない。今後は議事録を送付する案など会議録公表に取り組み、より多くの家族が会議に参加することを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護相談員の訪問、実地指導があります。指導をしていただき連携を取っている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員又は市担当職員が参加し情報共有を図っている。又、市担当者とは日頃の相談・連絡や市の介護相談員の訪問受け入れ、行政主催の虐待研修等の伝達講習会への参加や市委託事業の「呉きてくれサロン」にも参加して市町との協力関係の構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修会等を通して職員は「拘束はしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。玄関は自動ドアで見守りや同行対応をしたり、床センサーマットを設置し拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。事業所内で三月毎身体拘束廃止委員会を開催して事例検討を行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修を行い、職員間でも見過ごすことのないよう、お互いに注意し合い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>利用されている方はいないが、必要とされる方の為、関心を持ち活用できるように努める。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>分かりやすい説明を行い納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>要望を述べられるよう「意見箱」「苦情受付簿」を設けている。運営推進会議にも参加していただき直接反映できるよう配慮している。</p>	<p>事業所玄関に意見箱等も設置され、家族とは面会時・介護計画見直し時等に管理者や職員が要望を把握する様に努めており、連絡ノート等で共有している。又、一昨年前までは家族アンケートも実施していた。要望により家族に代わり事業所が利用者の下着を購入し、月末請求とした例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>現場の職員の声を生かせるように日頃から代表者、管理者と意見交換の場を設けている。</p>	<p>毎日の申し送り、必要時の職員会議、代表者や管理者との随時の個別面談等を通して職員意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員提案により、花見の場所や利用者に適した排泄用品の選定、業務量を勘案した終業時間の調整等をした経緯がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務状況、実績等の把握、それに基づき手当がつきやりがいが持てるよう整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内の研修に参加、日々の業務の中で資格保有者より学び日々の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同業者との交流は行っていないが今後勉強会に参加する等、取り組んでいきたい。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>要望があれば相談に乗り、不安を感じさせない過ごしやすい環境をつくり信頼をしていただけるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族の気持ち、ご本人の気持ち家族同士の中のどちらの思いも受け止められるような体制作りを心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご本人、家族にとってその時に一番良い方法、必要とされていることを見極め対応に努める。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人ができることをして頂きながら、人生の先輩として言葉、知恵をいただきながら、支え合い過ごしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員は支援者であることを前提に家族と一緒に支え合っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>関係が絶えてしまわないように支援している。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしている。近くの家族や知人の頻回な面会もある。家族の協力も得ながら自宅や墓参り等への外出を支援し、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様になっている。家族からの手紙や家族との受診の際に外食を楽しむ事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>1人で孤立のないように見守り声をかけ輪を作っていくよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>サービスが終了しても相談や支援を行います。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人にとって一番良いと思う方法を検討し希望に添えるよう努めている。</p>	<p>利用開始時に利用者の習慣や好み等の情報を収集し、その後はその方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、家族情報も参考にしつつ連絡ノート等で共有している。受容して利用者の「強み」に意識を向け、夫が農園を営んでいた為、花の好きな利用者にフロアの花を飾って頂いた立案例がある。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>相談の際に情報は得るようにしている。日常生活の中でも話の中で聞き取り把握に努める。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>常に現状が把握できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>3ヵ月毎にモニタリングを行い、現状に合った介護計画を作成、変化がなくても多方面よりアイデアを出し合い計画できるようにしている。</p>	<p>アセスメント・家族の意向を踏まえ計画作成担当者が原案を作成し、郵送にて家族の同意を得て本案としている。計画作成担当者がモニタリングを基本3ヵ月毎、計画の見直しを半年毎に行う。夫が農園を営んでいた為、花の好きな利用者にフロアの花を飾って頂き、職員と夫の思い出話に花が咲くこともある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアの実践、気づき、工夫など個別に記録し職員が情報を共有出来るようにしている。毎日の記録をモニタリングし介護計画に役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その時の状況、要望に応じて柔軟な支援ができるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>よりよい暮らしができるよう地域や場の力を借り支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>家族、本人の希望を大切に、かかりつけ医の継続もできる。協力医とも連携し対応している。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。内科協力医から2週毎の往診、専門医の受診は主に事業所の協力による。利用者の健康管理は適宜母体法人の看護師による支援もある。又、週1回の協力歯科医の往診もあり、安心して医療を受けられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	母体施設の看護師と連携し合い協働している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	ご家族、ご本人の負担にならないよう相談を密にし病院と連携して元の生活に戻れるよう支援する。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	ご家族、ご本人との話し合いの上、病院や併設の特養と連携して対応支援に努めている。	利用開始時、入所契約書にて基本的方針を説明し了解を得ている。「看取り」は行わないが、重度化した場合に備えて入所・入院に向けた支援に取り組む方針である。重度化した際には指針に基づき本人・家族・協力医等関係者で話し合い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	急変や事故発生に備え対応方法を学び実践できるように努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	避難訓練を行い実際の場面で対応できるように対策している。	「消防計画等の防災計画に基づき」年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施している。又、法人理事長が地域町づくり委員会の女性会会長を兼ねており、災害時の地域協力についても口頭にて地域に災害時の一般的な協力要請を行っている。法人敷地内の施設・事業所間の相互連携もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊重とプライバシーを守るように対応している。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者に対する言葉かけも不適切な対応には指導を行い、気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。言葉のトーンや利用者との距離感に配慮した対応を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の希望や好みを普段の生活から聞き取り、本人が決定できる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースに合わせた生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一方的な支援にならないように、持っている力に応じ希望に合った支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	会話を楽しみながら食事をされている。	隣接施設の厨房で作った料理に事業所で炊いたご飯を添え、配膳を行っている。利用者も食器洗い等、役割に応じた日課を行っている。職員も食卓を共にして介助もしながら会話を楽しんでいる。陶器製の食器で生活を感じ、午後のテラスでお茶を楽しんでいる。家族と外出先での食事等も好評である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士が献立を作成，調理を行い支援。食事量，水分量は記録し対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後には口腔ケアを声掛けし必ず行っている。異常があれば家族と連携して対応。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排尿，排便表を作成し，ご本人のリズムに合わせて自立に向けた支援に努めている。</p>	<p>排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握・共有している。利用者の殆どが布パンツであり，食事前後の排泄に繋がりが易い時間帯に事前の声掛けをしてトイレ誘導する等，自立に向けた支援を行っている。又，夜間排泄時の転倒防止の為，ベッド周辺に床センサーマット設置等の環境整備をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>運動，水分補給，乳製品の摂取など予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご本人に合わせて入浴を楽しんでいた。</p>	<p>週2～3回の午前・午後入浴を基本とするが利用者の体調や入浴習慣により柔軟に関わっている。入浴は据え置き型家庭浴槽での個人浴で浴槽用手すり等を設置したり，脱衣室・浴室の温度差によるヒートショック防止にも配慮している。隣接通所介護事業所での交流時に露天風呂を楽しむこともある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>家具やベッドはなれたものを使 用していただき、布団やシーツは 清潔に努めています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>職員が把握確認し、細かな変化 など注意して支援している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>一人ひとりに合わせた支援がで きるように努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>散歩に出かけたり、週2回デイ サービスとの交流をしています。 ご家族との外出にも積極的に支 援しています。</p>	<p>日頃から近隣保育・幼稚園等へ の散歩を少人数で楽しんでいる。 毎年恒例の花見等の他、法人の 隣接通所介護事業所の行事で互 いの利用者が交流したり、露天 風呂を堪能している。又、家族 と同伴で外食したり、職員との 受診時に利用者の馴染みの場所 に寄り道して「非日常」を楽しむ こともある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>1人ご希望で所持している。8人 の方は使用することはないので 所持していない。お力添えがで きるようにご家族にも支援して いただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	積極的に支援している。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に合った飾り付け、制作作品など飾ったり、本人やご家族にも楽しんでいただけるような空間を作っています。	季節の花や正月・七夕他、季節行事の飾り付けや利用者とする貼り絵・折り紙等の「壁掛け作品」で季節の移ろいを感じられるよう取り組んでいる。天窓からの採光で明るいフロアが開け、夏場には天井ファンで涼が得られる。又、トイレの重たい扉に替えて開けやすいカーテンを吊るし、過ごしやすいよう努めている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	一人になれる場所、集まれる場所に工夫して居心地良く過ごしていただけるように配慮している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	慣れ親しんだ家具を持参され、好みのものや写真、贈り物など飾ったりして住みやすい空間づくりに配慮している。	居室にはベッド・押入れ・洗面台等が備え付けられ、三面鏡等、使い慣れた物や自作品等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。利用者により、立ち易い様にベッドのマットレスを布団に替えたりしている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	既存機能を生かし、見守り安全に生活が今後も送れるように、職員間で注意、検討を行い工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームセラピス

作成日 令和2年3月13日 (金)

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	室内に居る事が多く外に出る機会がない。	季節ごとのドライブ。	目的地、人員配置などの行動計画を立てる。	2ヶ月以内
2	1	近くにお店がない為個人の買い物が出来ない。	利用者様と一緒に買い物に行く。	利用者様の欲しい物を把握する。	3~4ヶ月以内
3	1	毎日の楽しみ。	利用者様と一緒におやつを作る。	月1回手作りおやつの日を決め勤務体勢をつくる。	2ヶ月~
4	1	職員間の情報交換が出来ていない。	カンファレンス会議の開催。	問題点をあげ月1回の会議を開く。	6ヶ月以内
5	1	全職員参加の勉強会が出来ていない。	職員の意識向上、定期的な勉強会の開催。	勉強会の担当者、内容、開催時季を検討する。	6ヶ月~
6	4	運営推進会議の議事録の公表について。	家族の参加、参加できなかった方にも公表。	毎月、お知らせ(新聞)を作成し配布する。	6ヶ月~
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。